

中学校部活動の地域移行に関する政策提言

福知山市議会

令和7年2月

1 はじめに

中学校部活動の地域移行がスポーツ庁、文化庁、文部科学省の提言を踏まえガイドラインに基づいて、移行に向けた環境整備が進められている。全国の市町村においては、改革推進期間で実証事業を展開しており、地域の実情に応じて段階的に実現を目指している状況がある。

この提言に至った背景には近年、少子化の進展で生徒数が減少傾向にあり、各中学校の運動部活動の運営が種目によって単独でチームが編成できない状況が起こっていることにある。福知山市内の9中学校においても、ほとんどの種目によって部員が減少していることから、生徒が希望する種目の部活動が学校にないなどの理由により、入部できない現状がある。また、教員が指導経験のない種目の顧問になることもあり、技術を向上したい生徒が、専門的な指導が受けられないなど、難しい面が生じている。さらに、休日の部活動の指導、大会運営などが、教員の業務負担になっており、教員の働き方改革や充足が課題となる中、改善が求められている。

こうした背景を踏まえ、今後、生徒にとって望ましい部活動の環境整備が必要となる。

福知山市は、将来にわたって市内中学校生徒に、希望するスポーツや文化芸術が持続可能な形で実施できることを目指し、令和5年度から部活動地域移行の実証事業を開始している。教育厚生委員会では、教員の働き方改革の調査研究を行ってきた経過の中で、部活動の地域移行が果たす役割は、これまでの諸課題を解消に近づけていく上で非常に大切な要素として考えている。

本市は今後、部活動の地域移行を進めていく上で、様々な課題を乗り越えていくことになるが、令和9年度以降の本市が目指す地域移行が、生徒や保護者などのニーズに合わせた形で創られるよう、委員会として「中学校部活動の地域移行」に関する政策提言を行う。

2 調査研究の経過

令和5年	8月18日	教育委員会との意見交換会
令和5年	11月7日	岐阜県下呂市行政視察「教員の長時間労働と中学校部活動地域移行等について」
令和6年	6月13日	教育委員会との意見交換会
令和6年	7月31日	兵庫県神戸市行政視察「中学校部活動の地域移行等について」
令和6年	11月21日	中学校部活動地域移行・総括コーディネーターとの意見交換会
令和7年	2月7日	教育厚生委員会「政策提言について」

3 本市の中学校部活動の現状

(1) 本市の中学校部活動に関する現状と課題

本市の中学校部活動は学校教育の一環として、教員などの献身的な指導の下で実施され、文化やスポーツの振興に大きく寄与してきている。また、学年や立場の違いを超え、生徒や教員等が同じ目的に向かって、一緒に活動を行う中で人間関係の構築と共に、学習指導や生活指導が効果的に行われることや、生徒の自主性、協調性、責任感、連帯感等を養う機会となっている。

市立中学校9校の運動部活動の現状に目を向けると、【図1】に示すように加入部員数がやや減少傾向にある。【図2】の運動部がある学校の状況では、令和6年度5月末時点で2～10種目が実施されているが、今後、このまま生徒数の減少が進み、実施種目が減っていけば、生徒の希望する運動部活動に入部することが難しい状況になってくると言える。

「福知山市立中学校に係る部活動指導の方針」においては、顧問の長時間勤務を解消するため、複数顧問による連携や外部指導者の活用などが推進されているが、顧問が指導を熱心に行うことで、結果として、時間外勤務が多くなる。

また、令和4年度に実施された「市立中学校教職員アンケート」の結果によると、教員が子育てなどで休日の部活動に出にくい状況もあることや、また、未経験の種目に顧問として指導している教員が4割以上とされ、技術指導などの面で難しさを感じていることが伺える。

【図1】市内9校運動部活動の加入部員数（令和6年5月末時点）

	R 3 年度	R 4 年度	R 5 年度	R 6 年度	R 3年度と R 6年度の 比較
市内中学校 運動部 加入部員数	1, 4 9 4	1, 4 9 6	1, 4 2 4	1, 4 0 3	△ 9 1

〈令和6年度第1回総合教育会議 資料抜粋〉

【図2】○印 部活動がある学校（令和6年5月末時点）

	桃 映	南 陵	成 和	六 人 部	川 口	日 新	三 和	夜 久 野	大 江
運動部									
陸上競技 男子	○	○	○	○	○	○	○	○	○
陸上競技 女子	○	○	○	○	○	○	○	○	○
野球	○	○	○	○	○	○			○
サッカー	○	○	○	○		○			
バスケットボール 男子	○	○		○	○	○		○	
バスケットボール 女子	○	○	○	○	○	○		○	
バレーボール 男子									
バレーボール 女子	○	○	○	○		○			○
ソフトテニス 男子	○	○	○			○	○		○
ソフトテニス 女子	○	○	○			○	○		○
ソフトボール 女子		○				○			
卓球 男子	○	○	○	○		○			○
卓球 女子	○	○	○	○		○			○
剣道		○		○		○			
柔道 男子		○							
柔道 女子		○							
文化部									
吹奏楽	○	○	○	○		○			
音楽								○	
美術		○	○	○		○			
理科		○							
家庭科						○			
生活科学			○			○			
科学技術			○	○					
パソコン	○		○						○
自主研究		○		○					
社会体育						○	○		

〈令和6年度第1回総合教育会議 資料抜粋〉

（２）本市の部活動地域移行の取り組み状況

福知山市スポーツ推進計画には、中学校の部活動地域移行の推進地域における持続可能で多様なスポーツ環境を整備することにより、生徒がスポーツに継続して親しむことができる機会と、生徒の多様なニーズに合ったスポーツ活動の機会を確保・充実させることをめざし、部活動から地域クラブ活動へと段階的に移行を進めていくとあり、部活動地域移行に向けた様々な事業を実施している。

【部活動地域移行への事業実施】

- ① 令和４年度（Ｒ５．１）に、部活動地域移行に関するアンケートを実施し、ニーズや意向を把握。
 - ・対象者：教職員、児童（小５，６年生）、生徒（中１，２年生）、保護者（アンケート対象の児童生徒の保護者）

② 部活動改革検討会議の設立

令和５年６月１日施行の福知山市部活動改革検討会議設置要綱に基づき、国における「運動部活動の地域移行に関する検討会議（スポーツ庁）」及び「文化部活動の地域移行に関する検討会議（文化庁）」の提言等を踏まえ、本市の生徒にとって望ましい部活動の在り方や地域移行について検討を図ることを目的とする。

〈令和６年度の主な検討内容〉

○部活動地域移行基本計画策定

《 方針・めざすところ 》

- ・令和９年度以降の移行時の姿
- ・平日の地域移行
- ・財源確保（受益者負担等）
- ・令和６年度実証事業について
- ・令和７年度以降実証事業について
- ・児童・生徒・保護者等への周知

③ 部活動地域移行・総括コーディネーターの配置

- ・各校の部活動の把握及び地域移行に向けた検討・調整を行う。
各校の実態把握、検討会議の運営、各種スポーツ団体及び文化団体関係者との連絡調整、関係者・市民等への周知等
- ・実証事業（モデル事業）に向けた環境整備・指導者の派遣管理を行なう。

④ 令和5年度実証事業の実施

○ホリデークラブの実施

複数の学校の生徒が合同で専門性の高い指導を受けられる地域クラブ活動を土日など休日に実施

○休日部活動地域移行モデル2種目（サッカー、ソフトボール女子）

・サッカー部

南陵中及び日新中は部員数も多く、単独でチームを作れるため、その2校を除く7中学校にホリデークラブ・サッカーの募集を行った。

部活動がある3校の生徒33名（桃映中、六人部中、成和中）、外部指導者11名が登録された。

10月より開始し月平均2回、土曜日の午前中に活動が行われた。

- ・スクールバスを活用して、学校と会場を送迎
- ・指導者はサッカー部顧問による兼業兼職、外部指導者
- ・会場は各中学校や民間施設（S-LAB）
- ・運営は市教育委員会及び各学校顧問

・ソフトボール部（女子）

合同部活動として活動している南陵中と日新中のソフトボール部の休日のホリデークラブ・ソフトボールとして10月から活動開始。

その他の中学校は、ソフトボール部（女子）の部活動はなし。

- ・指導者は南陵中、日新中のソフトボール部顧問
- ・遠方に行く場合はスクールバスを活用
- ・会場は主に南陵中学校、日新中学校
- ・運営は市教育委員会及び各学校顧問

⑤ 令和6年度実証事業の実施

休日部活動地域移行モデル7種目（サッカー、ソフトボール女子、剣道、バスケットボール男子・女子、バレーボール男子、合唱）

- ・原則月2回実証事業を実施
- ・スクールバスでの学校と会場との送迎はしない
- ・運営の一部を各協会・連盟で実施
- ・受益者負担なし

	指導者	会場	運営	対象	その他
剣道部	剣道連盟選定	武道館 地域体育館 南陵中	・市教委 ・連盟	市立中学校 1・2年生	南陵中、日新中 のみ部活動あり
バスケット ボール男女	バスケットボ ール協会選定	610ベース 川口中学校	・市教委 ・協会		男女とも三和中、 大江中は部なし 成和中は男子な し
バレーボー ル男子	バレーボール 協会選定	桃映中学校	・市教委 ・協会		市内中学校に部 活動は存在しな い
合唱	合唱連盟選定	公共施設等	・市教委 ・連盟		市内中学校に部 活動は存在しな い ※現在募集中

〈令和6年度第1回総合教育会議 資料抜粋〉

4 調査研究の内容

教育厚生委員会では、次のとおり先進地への行政視察や関係部局との意見交換などの調査研究を行った。

(1) 行政視察

【岐阜県下呂市】（令和5年11月7日）

「教員の長時間労働と中学校部活動地域移行等について」

下呂市の部活動の課題は生徒数や教員数の減少に伴い、既存の部活動数も減少し、生徒は希望する部活動に入部できない状況があった。また、顧問を務める教員は複数顧問体制の維持が困難なことから、1人体制となり、経験したことのない部活動に配置される場合もあるなど、負担が強まっている。

そうしたことを受け、生徒にとって有益であり、持続可能な部活動のあり方を校長会で検討し、部活動のガイドラインを策定した。そして、拠点を決め、合同部活動を実施し、課題解決を目指す。

平日の部活動は、指導員を教員で担い、週4日以内で行うこととし、時間は勤務時間の中で2時間以内、16時30分までに活動を終了することとしている。平日の活動を16時30分としたことで、教材研究などにゆとりができる。

休日は地域クラブ活動という形で、部活動別に練習拠点となる学校を設けており、各中学校の生徒が活動したい拠点校に出向き、他校の生徒と一

緒になって部活動を行う。休日の活動は3時間以内とし、土日のどちらかで行う。

指導員は小中学校の部活動にやりがいを感じている教員、地域の活動にやりがいを感じている社会人で構成され教育委員会が任命する。指導員の確保については、小中学校教員で部活動指導者38人、社会人指導者40人確保できている。生徒がやりたいことに挑戦できることや、専門的な指導が受けられ、自校にない部活動に加入できたことで、陸上競技の全国大会出場者を輩出した事例もある。

地域移行に関わっては、保護者が負担しなくてはいけない移動にかかる交通費について、スクールバスの運行と公共交通機関を使用することで、いわゆる受益者負担に関わる部分への予算を市で確保し、保護者の経済的支援体制を整えることとした。

【兵庫県神戸市】（令和6年7月31日）

「中学校部活動の地域移行等について」

神戸市立中学校部活動の地域移行は令和8年度から平日・休日とも移行できるように検討が進められている。その理由に平日の教員顧問と休日の指導員による活動との間で、指導のあり方、練習方法など連携の難しさがあることから、休日だけでなく、平日も併せて地域移行としていく。将来にわたって地域の方々とともに生徒が活動できる神戸の地域クラブ活動「KOBE◆KATSU（コベカツ）」に完全移行を目指すとしている。生徒のニーズに応じたスポーツや文化活動の受け皿として学校区を越えて希望する活動に参加ができる形にしていく。

活動団体は登録制とし、要件を満たす団体を公募し、教育委員会事務局が審査の上で「KOBE◆KATSU（コベカツ）」に登録をする。市の業務委託ではなく、「KOBE◆KATSU（コベカツ）」は、あくまで各団体が設定する運営に必要な最低限の費用を会費として受益者が負担する。

課題としては、地域によってはスポーツ団体が少なく、ニーズに合う応募者があるかによって、活動の提供が難しくなる。

参加費用は保護者の負担となることから、参加者に格差が生じないように、経済的な困窮家族への支援策が必要とされる。

（2）福知山市教育委員会との意見交換会

本市の中学校部活動地域移行の取組みについて

- ・事業内容と現状
- ・事業課題と現場等の意見

教育委員会資料を基に説明後、意見交換会を実施

(3) 中学校部活動地域移行・総括コーディネーターとの意見交換会

出席者：総括コーディネーター3名、福知山市教育委員会

【総括コーディネーターからの主な意見】

○実証事業

- ・文化部では、令和6年度からホリデークラブの合唱を立ち上げたいとして、合唱連盟や音楽教員と協力して部員を募ったが、集まらなかった。文化部は吹奏楽や美術などがあり、実証について検討中である。
- ・サッカーやソフトボールの種目では生徒や保護者から専門的な指導を受けることができ、良好な評価を得ている。

○ホリデークラブ

- ・今、ホリデークラブの活動自体はチームとしての活動というより、集合してスクールのな団体練習の形が比較的多い。平日はそれぞれが学校でできる範囲で練習する。同じ指導者の方が指導にあたっているところもあるが、バスケットボール部は平日の顧問はホリデークラブに関わっていない。

今後は、平日とホリデークラブの指導内容の共有部分も必要になる。

- ・練習会場までの移動手段については、どのように通わせるか大きな課題である。

○費用

- ・運営費に関して、指導者の報酬、部員の会場までの移動に係る経費が大きい。練習場所は学校施設や市の公的な施設の利活用で賄えるとすれば費用は大きくならないと考える。
- ・運営費に関する財源では、兵庫県加古郡播磨町、茨城県守谷市は子ども政策という形で部活動地域移行の予算をたてており、企業版ふるさと納税やクラウドファンディングなどを財源に活用していくことも考えられることから、教育委員会だけでなく課をまたいだ連携が必要と考える。
- ・地域移行した際の受益者負担の部分など、市の方針をしっかりと決め、保護者に対して、十分な説明をする必要がある。

○その他

- ・学校の教員にとって、地域移行により、土日の部活動に入らなくて良いとなれば、負担は軽減されるが、生徒にとっては、その種目を教えたことがない顧問でも、練習会場で見守ってくれるだけで嬉しく感じ、信頼関係が深まる。
- ・地域移行する意味は間違いなくあると考える。

5 政策提言

(1) 重点課題

- ① 活動場所と移動手段に関すること
- ② 指導者の確保
- ③ 持続可能な運営体制の整備
- ④ 受益者負担
- ⑤ 文化部活動の受け皿
- ⑥ 必要な財源確保

(2) 具体的施策

① 活動場所と移動手段に関すること

- ・活動場所は、主に学校施設や他の公的施設と民間施設になる。市は広大な面積を有しているため、活動場所までの移動距離が地域によっては長くなることがある。活動場所までの移動は、生徒の心労面や安全面において、十分配慮が必要であり、移動距離を十分考慮に入れ場所を設定する。

今後、ホリデークラブの登録者を増やし、一つの種目が多人数になれば、区域を分けて実施できるよう、活動場所を増やし、生徒の移動距離を短くする。また、その場所ごとに指導者を配置していく。

- ・生徒が自らの志向でどの種目のホリデークラブに所属するかを選択する上で、活動場所までの移動手段は、大切な要点となる。

移動距離が長く、自力で通えないとなれば、公共交通、保護者の送迎などとなる。移送手段では、運転に係る人員不足が生じていることが懸念されるが、生徒や保護者の意向を汲み取り、反映されるよう最大限努力する。

生徒の安心安全を第一とし、遅延なく確実に移動できることが前提であり、その辺りを十分検討して実施する。

また、移動にかかる費用が発生することになれば、経済的な負担を抑えることが必要であり、生徒が希望通りにクラブに所属でき活動に専念できるようにする。

② 指導者の確保

- ・生徒が安心して活動ができることやホリデークラブの継続的な活動を担保する上で指導者や指導者補助員の確保など、部員数に応じた指導者の増員を図っていくことが必要である。外部指導者（地域人材や民間団体の派遣など）についての謝金、交通費なども考慮し、他の自治体の事例も参考にしながら、増員を図っていく形の措置を講ずる。

- ・ 公立大学との連携による指導者の確保。

③ 持続可能な運営体制の整備

- ・ 地域移行にあっては持続可能な運営体制が必要である。その場合、業務運営を委託することも必要と考えられるが、その委託内容として指導者の募集、登録、管理、派遣、会場確保、関係団体等の連絡調整などの業務を十分行うことができる人員など組織体制を敷いて、円滑に進める。
- ・ 運動部活動、文化部活動ともに実証事業が終了した後には運営の実施など、民間事業者等も視野にいたした永続的な運営体制を目指す。

④ 受益者負担

- ・ 本来、部活動は負担が生じず、教員の献身的な活動の中で支えられてきた経緯があるが、運営主体の移行に伴い、会費など活動費用の負担が保護者にとって躊躇となる。そうしたことを勘案し、他の自治体等も参考にしながら民間の運営などに係る保護者の負担について公費による支援も検討し、家庭の負担を抑えられるよう適正な対応が必要である。
- また、経済的な理由等で部活動への参加が困難と認められる家庭に対して必要な援助を行う。

⑤ 文化部活動の受け皿

- ・ 令和6年度に引き続き、合唱においては、生徒にあらゆる機会を通じて更なる広報等で部員募集を行う。また、他の文化部活動においても受け皿等、地域移行のあり方を検討していき、生徒にとって魅力ある部活動を目指す。

⑥ 必要な財源確保

- ・ 今後、運動部、文化部の実施種目を増やし事業を拡大していく必要があり、それに応じて指導者の増員、多くの活動場所への移動経費やその他、事業に係る運営経費が増大する。それらのことを踏まえ、「企業版ふるさと納税」や「クラウドファンディング」等の活用により運営財源の確保に努める。
- ・ 部活動が地域クラブという形で運営されることによって学校だけでなく、文化スポーツの振興、また、子育て部門に広く関係することとなるため、課をまたいだ連携によって財源を生み出すことも検討する。

6 おわりに

福知山市における中学校部活動地域移行計画は、令和8年度までに既存部活動の全種目において実証事業を行い、令和9年度以降に地域移行を目指す計画である。生徒のニーズを大切に考え、多種多様なクラブ活動を誰もが希望すれば安心して公平に体験できるよう、最大限努力していくことが重要である。

今後、各中学校生徒や保護者に、地域移行の必要性や果たす役割などについて、丁寧に説明を行うことが求められる。そして実証事業の中で、課題となる練習会場への移動手段、活動費等受益者負担の整理、また、指導者の確保等、検討事項について、生徒や保護者の意向を十分汲み取った形の答えを具体的に強いメッセージとして発信していくことが理解促進につながり、引いては、部員や指導者の登録の拡大、受け皿の確保に結び付くと考ええる。

生徒にとって望ましい部活動地域移行の「福知山モデル」の実現に向け、持続可能な環境づくりを期待する。